



## 佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、[sasa@keimei.ac.jp](mailto:sasa@keimei.ac.jp) までお願いいたします。

### 啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行 (さっさ のぶゆき)

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当 (横浜市)、日本語イメージ・プログラム教諭 (バージニア州)・ワシントン補習授業校を経て、現職。

## 海外体験学習

日本の多くの学校で「海外体験学習」を行っています。帰国生が自分の住んでいた国へ「体験」に行くということはあまりないでしょうが、友だちが体験学習に行ってその国に対する理解を深めてくれれば、おたがいによりよく分かり合えるようになることが期待できます。

海外体験学習が具体的にどのように行われているか、啓明学園の一番最近のプログラムを例にご紹介しましょう。

#### ◆準備と計画

啓明学園とベルリンの Gustav-Heinemann-Oberschule とは、東京都のプログラムをとおして交流が始まりました。すでに、東京からベルリン、ベルリンから東京と、一度ずつ訪問を実施しています。日本とドイツの間には文化的な相性の良さのようなものを感じます。英語でコミュニケーションをする場合

は、どちらにとっても外国語ということ、アメリカやオーストラリアの人たちを相手にするよりも分かりやすいという一面もあります。また、ドイツの文化には、伝統を大切にすること、環境に対する意識が高いことなど、日本の生徒に感じ取らせたいものがいろいろとあります。

ベルリンの夏休みと日本の夏休みが重なっているため、夏休み中には体験入学をすることができません。そこで、冬休み中に訪問する計画をたてました。ベルリンでは、年明けすぐに授業が始まるので、日本の冬休みが終わるまでの一週間お世話になることができます。

体験入学できる期間が短いので、その前にドイツの生活や町の様子を少しでも経験させたいと思い、ベルリンに行く前にデュッセルドルフに一週間ほど滞在することにしました。デュッセルドルフには啓明学園の前職員の先生がいるので、細かい手配や下見をお願いすることができます。

実施予定の1年以上前から、ベルリンやデュッセルドルフと連絡を取り合い、ホームステイの可能性、適当な見学場所、宿泊施設、移動の方法などを細かく打ち合わせていきました。そして、実施の約8か月前の4月に参加者を募集し、夏に実施するテキサスへの体験学習と重ならないように調整して、高1と中3の11人のメンバーを決めました。

6月から毎月2回ぐらい、夏休みには4日間集中して、準備のためのミーティングを持ちました。ドイツについての基本的な知識、生活のためのドイツ語などを学習し、体験入学の時日本語専攻クラスで発表する「日本紹介」の準備をしていきました。10人が三つのグループに分かれて、日本の学校、日本の食べ物、日本の服装について紹介することにしました。その過程で、十分身を入れて準備をすることができなかった生徒が参加を取りやめ、メンバーは10人になりました。体験学習は、事前・事後の活動までを含めて成果の上がるプログラムなので、長い間の根気よい取り組みが必要なのです。



「かわいい」ドイツの町